

組込みソフト産業推進会議第3回総会

6月1日(月)、組込みソフト産業推進会議第3回総会が開催され、約120名が出席した。開会あいさつにおいて、宮原秀夫会長(情報通信研究機構理事長)は「産学官が志を一つに結集した、この推進会議の活動が、組込みソフト産業の発展モデルとして全国に発信され、日本経済が再び自信と活力を取り戻すための力強い礎となるよう尽力する」との意気込みを語った。続いて2008年度事業報告、収支決算、2009年度事業計画、収支予算について審議を行い、これらすべての議案について承認された。

■2008年度事業報告

設立当初に掲げた「関西を組込みソフト産業の一大集積地にする」との目標に向け、推進事業と調査研究事業について104回の会合を開催するなど、積極的な活動を展開した。

推進事業では、高度組込みソフト技術者を育成する「組込み適塾」の開催や、初級・中級技術者のすそ野拡大を目的とした指導者向け研修を開催。また、アジア各国との緊密な連携構築に向け、中国東北3省やベトナム・ハノイへの現地調査を実施した。

調査研究事業では、組込みソフトの開発支援を目的とした、受発注ガイドラインの策定や開発支援ツールの活用方策の検討、産業技術総合研究所が設置する組込みシステム検証試験施設との連携スキームの作成や組込みソフト開発企業や技術者の技術力の「見える化」について検討を行った。

■2009年度事業計画

今年度は推進会議設立3年目の区切りの年である。新たに「組込みソフト開発機構設立検討部会」を設置し、関西における組込みソフト産業の振興・集積に必要とされる機能やサービスとあわせて、2010年度以降の組織のあり方や運営体制を検討することとした。

推進事業としては、昨年度に引き続き「組込み適塾」を開催するとともに、新たにプロジェクトマネージャーを育成するコースについて検討する。また、初級・中級技術者の育成については、指導者向け研修を開催するとともに、指導者用教材の充実をはかる。アジア各国との連携方策については、中国・ベトナムへの現地調査や日越経済討論会での議論をふまえ、提言を取りまとめる。

調査研究事業では、開発支援機能とサービスについて実行レベルまで具現化し、その「有効性」「実現性」「継続性」

について精査する。また、技術力の「見える化」をはかり、効率的な組込みソフト開発を実現するために、主な開発分野において、スキル基準やキャリア基準を定義し、その有効性について検証することとした。

■各部部长からの抱負

議案審議終了後、各部部长より「組込み適塾」や指導者向け研修をはじめとする教育事業の昨年度の実施結果と今年度の取り組み方針が発表された。また、アジア各国との人材連携体制構築に関する提言の作成、組込みソフト産業の開発基盤と企業育成に必要な事業スキームの検討、受注・発注間の共通言語となるスキル基準等の定義作りなどに取り組むとの力強い抱負が語られた。

■記念講演

安浦寛人・九州大学理事・副学長より「情報通信技術の産業的・社会的意義の変化と対応策—九州の取組みと関西への期待—」と題し記念講演をいただいた。

安浦氏は「情報通信システムを支える技術は飛躍的に変化し、社会システム自体を変化させた。技術自身の成熟とともに、社会の中での技術の地位も変化し、これにあわせた研究開発や産業的な価値創造の変化に対応する戦略を構築すべき」と述べた。

また、九州大学を中核組織として推進しているシリコンシーベルト福岡構想では、アジアにおける先端システムLSI開発拠点形成をめざし、地域の基本戦略に沿った個別プロジェクトを融合していること、社会システムや制度までを視野に入れた半導体集積回路の研究開発に取り組んでいることなどを紹介した。

組込みソフト産業推進会議 第3回総会



産業部

06-6441-0106